



日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部



発行人：阿波谷敏英,川上和徳
事務局 〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 川上和徳
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795
E-mail jpocardk@yahoo.co.jp

★ 新専攻医オリエンテーション・ポートフォリオ発表会の案内

専門研修支援委員 植本真由 (高松平和病院)

この度、下記の日程で新専攻医オリエンテーション・ポートフォリオ発表会を行います。

期日：2026年4月18日(土)

時間：13時受付 13時半～16時半

場所：HITO病院 (愛媛県四国中央市上分町788-1)

方式：現地+オンライン (zoom)

会費：無料

対象：PC学会 新・家庭医療専門研修プログラム専攻医、専門医機構 総合診療専門研修プログラム専攻医、指導医、関係者

メイン講演は社会医療法人石川記念会 HITO病院 総合診療科の五十野博基先生をお招きします。総合診療医・家庭医のキャリア形成について、専攻医からの質問も交えながらお話いただきます。

専攻医をはじめ研修に興味関心のある皆様、是非ご参加をお願いいたします。

★ 総合診療セミナー 「ER サバイバル ～unsuspected killer in ER～」

高知大学医学部家庭医療学講座 岩下演久

高知家総合診療専門研修プログラムは(公益社団法人)地域医療振興協会高知県支部との共催で総合診療セミナー「ER サバイバル ～unsuspected killer in ER～」を開催しました。

今回は講師として福井大学医学部附属病院救急科総合診療部の林 寛之先生にお越しいただきました。林先生は救急のレジェンドで、「研修医当直御法度」などの若手医師向けの本を多く書いておられ、様々な医療機関で若手向けのセミナーの講師をされたり、学会でも救急をテーマとしたセッションを行われたりするなど、若手医師の教育に非常に熱心に取り組んでおられ、私自身も今回のセミナーを非常に楽しみにしておりました。また、救急の林先生をお招きするにあたって、高知大学医学部附属病院総合診療部の盛實先生、高知大学医学部災害・救急医療学講座の竹内先生にご支援を頂き、医師・看護師だけでなく、救急救命士等の消防関係の方など幅広い職種の方に参加いただくことが出来ました。



講演は、臨床推論の考え方と、その中でのコミュニケーションの大切さをまずお話いただいた後に、実際によくある患者さんの訴えとそれに隠れる重大な疾患として「急性心筋梗塞」、「くも膜下出血」、「大動脈解離」を例にお話

いただきました。

いずれも豊富なエビデンスを土台とし、患者さんの訴えの頻度とその特徴、それに対する検査の感度、特異度から、時間経過におけるその感度の変化、教科書で学んできた事と実際に重要視すべき事の違について学ぶことが出来ました。その他にもインフルエンザ患者の心筋炎、高齢者のウェルニッケ脳症など「食欲がなくて」や「元気がなくて」というよくある患者さんの訴えの中に潜む“見逃してはいけない疾患”もお話いただき、自身の診療を見直す機会となりました。

受講後のアンケート(回答者 34 人)では、「セミナーのわかりやすさはどうでしたか」という質問には、大変わかりやすかった 88.2%、わかりやすかった 11.8%、「セミナーの内容は期待したものと一致していましたか?」という質問には、期待以上であった 67.6%、ほぼ期待通りだった 32.4%、と参加者の皆さんの持つ期待に応えることが出来たのではないかと思える結果となりました。自由意見でも「普段の診療の危うさに気付くと同時に、より論文などの文献を見つつ勉強しようと思った。」「教科書的な診察所見に囚われすぎないようにしようと思いました。」といったより自身が身に付けてきた知識のアップデートの必要性を感じたという意見や、「トリアージナースとして自己研鑽を更に行おうと感じた」などの様に職種を超えて医療従事者としての意識の変化を感じさせる意見もみられ、皆さんにとって有意義なセミナーであったことが伺えました。

林先生に心より感謝申し上げます。



★ 9th Sanuki GM Conference 開催報告

三豊総合病院 内科 遠藤日登美、中津守人

かがわ総合診療研究会の第9回さぬきGMカンファレンスを令和8年2月7日 三豊総合病院にて開催いたしました。お陰様で29名の参加を頂き、内、3名の専攻医と5名の初期研修医、2名の医学科学生も参加してくださいました。また、日本プライマリ・ケア連合学会の新・家庭医療専攻医のOJT1単位、専門医・認定医の更新単位1単位も申請準備が間に合い、18名から申請を頂きました。

今回は、群星沖縄臨床研修センター長の徳田安春先生をお招きして、午前中に三豊総合病院卒後臨床研修センターセミナーとして院内の研修医と看護師、GMカンファ参加者を対象に第1部「変化に気づく病棟ラウンド：異常の早期発見と共有の技術」と題して、わずかなサインを逃さず、医師と看護師が“同じ絵”を見るためのポイントについての講演、そして第2部「救急の“判断ミス”を防ぐ：認知バイアスとその対策」をテーマに救急で多い“思い込み”“急ぎすぎの推論”“安心バイアス”を解説し、医師・看護師双方が誤診リスクを減らすための実践的アプローチを紹介くださいました。午後には、「過度な検査も、過度な抑制も避け

る：臨床判断の質を高めるために」をテーマにGMカンファレンスが開催されました。

徳田先生の論文で2011年のJournal of Hospital Medicineに掲載された論文から日本の医療訴訟ケースのうち診断エラーの割合は30%、要因は知識不足以上に判断ミスであり、認知エコーやシステムエラーが原因となっているという報告を紹介してくださいました。「フレームその1：サイエンスによる病歴聴取と身体診察：科学的根拠に基づいた病歴と身体診察」検査に頼りすぎず、まずは患者の訴えや身体所見から診断を組み立てる枠組み、「フレームその2：アートによる病歴聴取と身体診察」医師のアートも診断には重要、患者ごとに異なる背景や症状を柔軟な発想と経験で捉える枠組み、「フレームその3：E-DIAGNOSISによる診断サポート」AI、検索エンジンを活用し最新の知見やエビデンスを診断に取り入れる枠組み（ただし、AIの誤情報等にも注意が必要）、「フレームその4：日本の患者による妥当性検証データ」日本の疫学や患者背景を踏まえ



9th Sanuki GM Conference
 主催 かかわり総合診療研究会 後援 香川県医師会

日時 2026年2月7日(土) 14:00 ~ 15:20

開催会場 観音寺市豊浜町姫浜708番地 管理棟3階講堂
 三豊総合病院 西棟南3階カンファレンスルーム

講師 群星沖縄臨床研修センター長 徳田 安春先生

Schedule

14:00 開会挨拶
 14:05 講演 「過度な検査も、過度な抑制も避ける
 : 臨床判断の質を高めるために」
 群星沖縄臨床研修センター長 徳田 安春先生
 15:20 閉会挨拶 三豊総合病院 内科主任 藤川 達也 先生

名寄せ先 第9回 さぬきGMカンファレンス事務局
 三豊総合病院 内科棟長兼健康増進センター長 遠藤 日香
 TEL: 0875-52-3366 (代) E: hifumi_e@mitsuyo-hosp.jp



診断ルール等の妥当性を現場で検証する枠組み、海外の知見だけでなく日本の疫学に即した診断を意識するという4つのフレームについて臨床に即してわかりやすく講演してくださいました。

今までの診療を振り返り、明日からの診療に活かせる多くの知識を学ぶことができました。沖縄県からさぬきまで足を運んでくださった徳田安春先生、また、GMカンファレンスへご参加頂いた先生方に深く感謝申し上げます。



★ 四国ブロック支部 新役員が決定しました

四国ブロック支部長：阿波谷敏英

このたび、2026年度・2027年度の代議員選挙が実施され、四国ブロック支部からは、以下の皆さんが選出されました。四国ブロック支部の規約には、代議員が支部役員となると規定されておりますので、この皆さんが支部役員もお勤めいただくということとなります。任期は2025年12月2日から、次期代議員が選出される時（2027年11月末頃）までとなります。

四国ブロック支部代議員（50音順、敬称略、下線は新任の方）

<u>阿部 雅則</u>	愛媛大学大学院	阿波谷 敏英	高知大学医学部家庭医療学講座
<u>五十野 博基</u>	HITO病院	<u>五十野 桃子</u>	HITO病院
<u>市来 智子</u>	香川大学医学部	植本 真由	高松平和病院
<u>江田 雅志</u>	高知県立あき総合病院	遠藤 日登美	三豊総合病院
大倉 佳宏	徳島大学病院	大原 昌樹	綾川町国民健康保険陶病院
<u>岡林 恵子</u>	誠内科	加藤 正隆	かとうクリニック
川上 和徳	綾川町国民健康保険陶病院	川本 龍一	愛媛大学医学部附属病院
コルビン 真梨子	医療法人社団光樹会 水谷内科 クリニック	<u>嶋本 純也</u>	国保一本松病院
白川 光雄	海陽町栄喰診療所	杉山 圭三	愛媛県立中央病院
高口 浩一	香川県立中央病院	武内 世生	高知大学医学部附属病院
十枝 めぐみ	綾川町国民健康保険綾上診療所	所谷 美和	特定医療法人長生会大井田病院
中津 守人	三豊総合病院	南木 伸基	高松赤十字病院
西村 真紀	やまと診療所高知	原 穂高	愛媛生協病院
板東 浩	小松島病院/徳島大学	<u>久武 加奈</u>	やまと診療所高知
<u>藤原 真治</u>	美馬市国保木屋平診療所	本田 壮一	美波町国民健康保険美波病院
<u>的場 俊</u>	高知県立あき総合病院	<u>森尾 真明</u>	高知県立あき総合病院
八木 秀介	徳島大学病院	<u>山内 紘子</u>	やまと診療所高知
山口 治隆	徳島大学	横井 徹	横井内科医院
<u>吉村 彰人</u>	高知医療センター		

新任の役員のうち、原稿をお寄せいただきました皆さまの自己紹介を掲載させていただきます。今後ともどうぞよろしくお願ひします。



阿部 雅則 先生 (愛媛大学大学院)

愛媛大学地域医療・総合診療学講座の阿部雅則です。今回、代議員に選出していただき、四国ブロックの先生方には厚く御礼を申し上げます。

私が愛媛大学に入学した1988年は昭和最後の年でした。この年は4月に瀬戸大橋が開通し、宇和島東高校が選抜高校野球で優勝しました。(おじさんの昔話で申し訳ありません。)

卒後2年目から町立野村病院(現・西予市立野村診療所)で勤務したことで、私の前任である川本龍一先生に愛媛大学卒業生として初めて指導を頂きました。そのご縁もあり、愛媛大学に地域医療学講座が創設された2009年から地域医療の教育を中心に携わってきました。2025年4月から「地域医療・総合診療学講座」と再編し、機能強化することになりました。今後とも「地域で働く地域医療・総合診療医」を育成することで、微力ではありますが地域医療に貢献できればと思っています。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

五十野 博基 先生 (HITO 病院)

いきるを支える HITO 病院へ異動・移住し、7年目に入ります。ワクワクする HITO 総診は、2026 年度には8名体制(一部は院外研修中)となります。診療・教育・運営を通じて、医療 DX も取り入れながら、病院から患者さん・医療者・地域へと笑顔が広がることを目指しています。主に急性期病院に勤務してきた経験から、総合内科・集中治療・家庭医療・総合診療専門医の資格を有し、PhD、MBA を取得しています。院内では診療科運営に加え、臨床研修センター長として医学生・研修医の教育、医療安全管理室室長としての業務にも携わっています。学術活動では、学生から専攻医まで、学会発表を毎年経験させ、可能な限り論文化につなげることを意識しています。微力ながら、どうぞよろしくお願いいたします。



市来 智子 先生 (香川大学医学部)

札幌医科大学・滋賀医科大学のスタッフを経て、2024年度より香川大学医学部総合診療学講座の教授を拝命しております。香川の地域医療に携わる先生方のご協力を頂き、香川県の総合診療医を増やすべく、学生教育・診療・研究に邁進しております。もともと内科及び循環器専門医であるバックグラウンドを生かし、地域の先生方や、専門診療科と良好な関係を築きながら診療ができれば、と思っております。今年度は厚生労働省の事業の採択を得ることができ、2026年1月より「かがわ総合診療医センター」を開設、センター長としても更なる総合診療医の育成に貢献できそうです。皆様ぜひお立ち寄りください。今後ともよろしくお願いいたします。



江田 雅志 先生 (高知県立あき総合病院)

母校である高知大学医学部付属病院での初期研修を終えて現病院に最初に赴任してから10年が経過しました。その間に当院でも初期研修医の受け入れが始まり、家庭医を目指す後輩ができ、実習を希望する学生も増え、自身の役割も大きく変わってまいりました。家庭医療の現場を見せる機会が増えることを喜ばしく思うとともに、自分自身もさらに精進せねばという刺激にもなっており、充実した日々を送っております。他にも感染対策チーム、栄養サポートチームなども任されるようになり、それぞれの専門性を生かせるチーム作りに励んでおります。今後は四国4県が協力して家庭医療を発展していけるように尽力させていただきますので、よろしくお願いいたします。



岡林 恵子 先生 (誠内科)

このたび、日本プライマリ・ケア連合学会代議員を拝命いたしました岡林です。長く勤務医として一般内科診療に従事した後、実家の診療所を継承し、間もなく2年を迎えます。開業医、また女性医師として、日々の診療に加え、経営や人事など診療以外の課題にも向き合う中で、地域医療にますます深く関わるようになりました。一方で、地域の課題についてじっくり考える時間を十分に確保できないことが、現在の悩みでもあります。多くの方に支えていただきながら、前向きに診療が続けられていることに感謝しつつ、現場の実感を学会活動に生かし、四国のプライマリ・ケアの発展に貢献してまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



嶋本 純也 先生 (国保一本松病院)

このたび、四国地方会に関わることとなりました嶋本純也です。人口減少に伴い診療所に近い療養型病院で臨床、学生指導をしております。本地方会が単に講演を「聞く場」ではなく、若手の先生方が最初から役割を持ち、共に場をつくる仲間として参加できる学会になればよいと考えております。四国の地域医療には、教科書には載らない失敗や葛藤、孤独があります。だからこそ、正面から語り合い、共有できる場に価値があると考えています。都市部では得られない少人数・多職種・顔の見える関係性の中での学びは、この地方会ならではのものです。若手の皆さんが安心して悩みを出し、次の一步を考えられる場を、一緒に創っていければ幸いです。



久武 加奈 先生 (やまと診療所高知)

今回、四国ブロック支部代議員を務めさせていただくことになりました、久武加奈です。どうぞよろしくお願い致します。私はやまと診療所高知という高知市の診療所で、外来と訪問診療を行っております。患者さん一人一人の気持ちに真摯に向き合うことを心掛け、毎日の診療に従事しております。プライベートでは、2人の子供たちと週末に公園へ遊びに出かけたりして気分転換を図っています。最近ランニングを始め、昨年12月には職場のスタッフと一緒にリレーマラソンにも参加しました。体力づくりのためにも継続していきたいと考えています。学会活動に尽力できるよう頑張りたいと思いますので、何卒宜しくお願い致します。



藤原 真治 先生 (美馬市国保木屋平診療所)

山間へき地にある木屋平(こやだいら)診療所に足かけ20年あまり勤務しております。立派になられた子どもさんに驚かされる時もありますが、もっぱら地域の皆さまも自分もトシを取ったなあと感じることの方が多くなりました。地域人口の減少が加速し、行政や医療介護を含む様々な地域機能が縮小しています。変化に対応しつつ、自分の立場からできることは何かを探しながら活動しているところです。研修に来られた方々には、そうした日常を一緒に過ごしたり、身近にある山などの自然を楽しんだりしていただいています(写真は地域研修にて訪れた剣山の頂上です。霧でした)。皆さま方には今度ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



的場 俊 先生 (高知県立あき総合病院)

2025年11月はPC学会の皆様大変お世話になりました。私は14年前に現在の病院に内科医として赴任し、総合病院での外来、救急、入院管理業務を行いつつ、医学生や初期研修医、専攻医の教育にあたり、また地域のスタッフへの架け橋となるような仕事をしております。この度は、日本プライマリ・ケア連合学会 四国ブロック支部 代議員として選ばれましたので、せっかくなので、私にできることをさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。



森尾 真明 先生 (高知県立あき総合病院)

この度、四国ブロック支部の代議員に選出されました。私は高知生協病院での初期研修後、四万十診療所や城北診療所での所長職、帝京大学や高知大学での教育・研究職を経て、2017年より高知県立あき総合病院にて診療と教育に従事しています。趣味は、落語、歌舞伎、旅行、食べ歩き、映画、積読、筋トレなど。最近では、オーディオをカスタマイズしたり、レヴィナスの哲学書や忠臣蔵の解説本、また関連の落語・歌舞伎本にふれる時間を楽しんでいます。今後、代議員として、日々の地域医療の現場で得た経験を支部運営に反映させ、四国におけるプライマリ・ケアの発展に貢献したいと考えております。引き続き、どうぞよろしくお願いたします。



山内 紘子 先生 (やまと診療所高知)

やまと診療所高知で勤務しております、山内紘子と申します。今回初めて四国ブロック支部代議員を務めさせていただきます。私は家庭医として患者さんが少しでも笑顔でその人らしく過ごせるように、日々の外来診療や訪問診療を行っています。私自身は活発な2人の男の子の子育て真っ最中でもあります。子供達のパワーに体力が追い付かず、最近では自身の体調管理も重要になっています。趣味の旅行で息抜きをしたり、子供達の成長を楽しんだりしながら過ごしております。これから四国ブロック支部代議員として自分自身の成長とともに四国ブロック支部がさらに発展していけるように尽力したいと思いますので、これからどうぞよろしくお願いたします。



【新しい家庭医療専門医のご紹介】

川寄 美智子 先生 (愛媛生協病院/伊予診療所)

愛媛県の愛媛生協病院と伊予診療所に勤務しております川寄美智子と申します。2025年に家庭医療専門医を取得しました。私が家庭医を目指す様になったのは、医学部2年生の時でした。当時私はヨーロッパの大学の医学部に所属しており、欧州日本人医師会の先生から日本家庭医療学会(当時)の夏季セミナーに誘っていただいたことがきっかけです。前職では中東で国際協力の仕事をしてきたことから、将来は産婦人科医になり中東の母子保健に貢献したいと考え医師を志す様になりましたが、医学を学び始め産婦人科医になることが本当に自分のしたいことなのだろうかと思悩む様になりました。そんな時にであったのが家庭医療です。疾患、性別、年齢にとらわれず、一人一人のそして地域社会の健康を守るプライマリ・ケアこそが、自分が目指す医師像だと惹かれました。後に家庭医療を学ぶことにより、自分が医師を志したのは健康の社会的決定要因(SDH)による命の不平等を目の当たりにし、何とか介入したいと思ったからなのだと言語化することができる様になりました。

卒後研修後、家庭医を志しつつも紆余曲折があり、2020年に愛媛生協病院の新・家庭医療と総合診療のプログラムを開始しました。日本に帰ってきて驚いたことは家庭医の数の少なさです。ヨーロッパの多くの国では医師の専門研修は国の事業であり、各専門科ごとに専攻医の人数が決まっています。様々な試験や審査を経てようやく専攻医になることができるのですが、希望の専門科に進学できないこともよくあります。医師の概ね

半数は家庭医ですが、人気の専門科であるため、外国人である私には家庭医のプログラムに入ることが難しかったのです。そのため、初期研修終了後は救急科や老年期内科などで研修を受けたり、ボートピープルに対する医療ボランティアを行ったりしました。日本では自由に専攻する専門科やプログラムを選択できるため、若い先生たちの選択肢は広がりますが、その分医師の偏在化の一因になっているのかもしれない。

さて、たくさんの方に助けていただいて何とか専門医を取得する事ができましたが、前述の SDH をはじめ、外国人診療、在宅での緩和ケア、移行期ケア、公衆衛生、東洋医学、予防医療、メンタルヘルスなど、学びを深めたいテーマは尽きません。もちろん私にとっての原点である中東の母子保健についても志は潰えておらず、少しずつではありますが具体化しているところです。学べば学ぶほど自分の視点や引き出しが増え、個々の患者さんや地域の特性に合わせた医療をデザインできるのも、プライマリ・ケアの素晴らしい点だと思います。今後も研鑽を積み、地域と共に成長しながら一步ずつ歩んでいきたいと思っています。今後ともよろしくお願いたします。

【新しい総合診療専門医のご紹介】

江田 雅志 先生 (高知県立あき総合病院)

新たに総合診療専門医を取得しました江田雅志と申します。2013年に高知大学医学部を卒業、初期研修2年間を母校で過ごし、2015年にVer.2の家庭医療専門研修プログラムの専攻を開始しました。3年間のプログラム終了後に家庭医療専門医を取得、以後現在の勤務先である高知県立あき総合病院で地域医療に従事しております。日々病院業務を行いながら後輩指導にも力を入れるようになり、この度総合診療専門医を取得するに至りました。

これまでは自身が主体で患者さんへの対応を行っておりましたが、専攻医や研修プログラムの卒業生を中心に頼もしい後輩が増えてきたため指導やマネジメントにかかる時間が増えてきました。自分が直接患者さんを診たいという気持ちをぐっとこらえるのが大変な時もありますが、後輩の成長をみるのは自身の成長とはまた違った喜びを感じることもあります。初期研修医や学生実習にも関わる機会が増えており、総合診療専門医がどのような働きをしているか、どのようなやりがいがある仕事なのか伝える努力をしております。

しかし、COVID-19流行の前後で人と人とのコミュニケーションが大きく変わってきたと実感しています。以前は飲み会や勉強会・学会の際にざっくばらんに先輩・後輩と話すことで、仕事中には言えない悩みや熱い思いを聞く機会が多く、それが仕事でのコミュニケーションの円滑化にも繋がっていました。現在の医学科高学年～初期研修医はCOVID-19パンデミックの真ただ中に学生時代を過ごしたことで、部活の繋がりがなくなり、同級生とも画面でのやり取りが増え、飲み会や食事会も減り、対面で人と話す機会が失われています。学会や勉強会などもオンラインでの参加が増えており、業務連絡なども電子化が進んだことで、以前のように対面で行うコミュニケーションが難しくなってきたと感じております。背中で語る時代は終わり、疑問はAIに解決してもらった時代になってきましたが、やはり直接話さなければ伝わらないことはあると考えております。総合診療医は人と人との関係を大事にしており、それはAIにはできない私たちの専門性です。医学的な指導のみならず、人と人とのコミュニケーションの大切さ、AIにはできない役割、そういったことを伝えられるように精進していこうと考えております。今後ともよろしくお願いたします。



【総合診療専門研修プログラム】あき総合病院総合診療専門プログラム「あきジェネ」のご紹介

あき総合病院総合診療内科 的場俊

2026.4月～プログラム始動

2026.4.1 岡本修専攻医（一期生）研修開始

高知県は山地と海に挟まれた地形で、人口減少と高齢化が全国でも高い水準にあり、地域医療の担い手不足が深刻化しています。特にここ安芸医療圏は人口約4.8万人に対し、高齢化率は45.2%（2020年）と、日本の2040年の予測をすでに超える状況にあります。従来の「病気を治す医療」だけでは対応しきれない課題が山積しており、プライマリ・ケアの役割はますます重要となっています。あき総合病院は、この課題先進地で未来の医療を担う総合診療専門研修プログラム、通称「あきジェネ」を始動しました。

医師は本来、専門性を持ち、それを深めたいという欲求を持つものです。循環器内科なら心筋梗塞、脳外科なら脳卒中、整形外科なら骨折の手術といったように、各専門科にはそれぞれの得意分野、いわば「ストライクゾーン」があります。患者さんがそのゾーンにボールを投げてくれば、専門医は断ることなく完璧に対応します。

しかし、高齢の患者さんは必ずしもストライクを投げてくれるわけではありません。誤嚥性肺炎、尿路感染症、脱水、老衰など、どの専門科から見ても疾患として「ぼんやり」しており、ストライクとは言い難いボールが投げ込まれるのが現実です。また、一つの病気だけでなく複数の疾患を抱えていることも多くあります。こうした専門性の狭間にある、しかし確実に医療を必要としている患者さんを受け止め、病状を安定させ、普段の生活へ「軟着陸」させる技術。それこそが、今求められている「総合診療」です。私たちは、どのようなボールでも受け止め、専門各科と協働しながら全人的な医療を展開できる医師を育てたいと考えています。

プログラムの特徴1

へき地と市街地のプライマリ・ケアをバランス良く研修

高知の豊かな自然に囲まれたへき地から、活気ある市街地まで、多彩なフィールドで研修できるのが本プログラムの強みです。病院での急性期対応から、診療所での継続的な関係性構築まで幅広い経験を積むことができ、現代社会が直面する健康格差や多様性の課題などにも実践を通じて向き合っていただきながら、へき地の地域医療で求められる病院総合診療と、比較的都市部の家庭医療の両方をバランスよく研修することができます。研修は高知県東部の地域医療の基幹病院である「あき総合病院」を中心に、高知市内のプライマリ・ケアを担う「やまと診療所高知」、「高知生協病院」など複数の医療機関にて行われます。

特徴2

ジェネラリストを育てる本プログラムでは、個々のニーズに応じて「病院総合医コース」と「家庭医コース」の2つのコースから1つを選択することができ、選択したコースに基づいてホームとなる医療機関のマッチングを行います。研修時期に応じて研修場所が変わることもありますが、プログラムの大きな特徴として、研修期間中を通して、週に1回のペースでホームの医療機関に戻り、診療と振り返りを行える「one-day-back研修」を採用しています。ホームでの診療と振り返り通して自身の成長を実感できるのはもちろん、患者さんの生活や人生を継続的に診て支えるHealer（癒し手）としての病院総合医や家庭医療専門医像を着実に形成していくことができます。希望者は、それぞれ病院総合診療専門医および新家庭医療専門医を最短4.5～5年間で取得することができます（研修開始時に決定）

あきジェネの目標

- ① 小回りがきいて、個別に対応できて、柔軟な対応ができる小規模のプログラム
（若手医師が、働きやすい環境を提供すること）
- ② 総合診療専門医をもっと増やし、地域医療を支えるキーパーソンにしたい